

ほほえみ 第106号



9月となり、西日本では豪雨、台風ニュースが多く聞かれるようになりました。盛岡に住んでいると、台風のすごさは直接感じる機会が少ないのですが、以前は、950とか960ヘクトパスカルというような数値は耳にしませんでしたので、最近の台風は、物凄い台風だと思います。本格的な台風仕様の家も必要になってくるのではないかと思います。まだ、残暑が厳しいですが、お彼岸を過ぎれば、もう一段涼しくなるかと思しますので、体調を崩さないようにお過ごしください。

血管新生阻害剤

血管新生阻害剤という、いわゆる抗がん剤ではない薬剤が、固形癌に使われるようになって、十年以上経過しています。本邦では2007年にベバシズマブという抗体製剤が承認されたのが最初なので、今年で12年目ですね。

血管新生阻害剤は分子標的薬の一部であり、腫瘍に分布する血管が作れらなくなる薬剤として開発されました。血管新生阻害に関する研究は、それなりに古く、この領域の先駆者はフォルクマン博士です。彼が開発したアンギオスタチンの報告をしたのは、私が大学で研究生活を送っていたころでもあり、抗がん剤以外に、人間が薬剤を設計して、特定の標的をブロックする治療開発というものがあり得るということで、血管新生阻害という概念以上に、分子標的治療の先駆けとして強いインパクトを感じました。しかし、アンギオスタチンは世に中に、ほとんど使用されないまま消えていったのですが、その大きな理由の一つは半減期にあると言われていています。半減期というのは、薬剤の活性が急速に失われることを意味し、遠くに運べない、流通できないことを意味します。

アンギオスタチンは、血管新生阻害作用をもつ、低分子化合物で、ベバシズマブは抗体製剤であるという、薬剤としての違いもありますが、コンセプトは同じ薬剤です。アンギオスタチンが有効性を示したことで、血管新生という戦略が認知され、アンギオスタチンの弱点を解消するため抗体製剤という別のアプローチが生まれたと言えるでしょう。残念ながら、血管新生阻害剤は、その後の研究の経過を見ると、単独ではあまり作用のない薬剤であり、現在は抗がん剤との併用で使用されることがほとんどです。

血管新生阻害剤を通してわかることは、本当に独創的なことは、全く、最新の知見ではなく、メインストリームのちょっと脇にあるのだと思います。道端の草花に気を留める人は少ないし、ましてや、長く観察する人はさらに少ないのですが、医学研究は、アマゾンの奥地を探検するようなものではなく、道端の草花に真剣に向き合う気持ちに近いのではないかと思います。



Judah Folkman博士

胃癌に対する、ロンサーフ療法の承認

先日、がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌に対して、トリフルリジン・トピラシル塩酸塩配合錠(ロンサーフ®)が承認されました。承認の条件は概ね2レジメン以上の化学療法を行った胃癌の方となります。この薬剤は、結腸・直腸癌で既に承認を得ていて、結腸直腸癌では使われていましたが、今回、胃癌でも、条件付きですが、承認が得られた訳です。

昨今は、分子標的薬が承認されることが多いのですが、この薬剤はオーソドックスな抗がん剤で、嘔気や食欲不振、全身倦怠感、骨髄抑制が出現しうる薬剤です。内服薬ですが、二週投与(実際には5日間×2週)、二週休薬という、少し、変わったスケジュールで飲む薬剤です。



秋の果物

先月は、さんさ踊りで盛岡の夏というところでしたが、急に涼しくなって梨やブドウを食べる機会が増えました。リンゴも店頭に並んでいるようですね。

岩手県はりんごの産地ですが、私の出身の富山県では梨の出荷が多く、ブランドとしては呉羽梨というものがあります。先日、実家から送ってもらったので、久しぶりに食べましたが、甘み、梨らしい味の強さがありますね。実家にいたときは、比べてみることもありませんでした。

品種が同じなら、味も変わりないと思うのですが、やはり、産地によって差があることを実感しました。



MEMO

9月のがん化学療法科の予定

- | | |
|-------|------------------|
| 9月3日 | 診療応援(平出先生) |
| 9月10日 | 診療応援(工藤先生) |
| 9月16日 | 敬老の日 |
| 9月17日 | 診療応援(平出先生) |
| 9月20日 | 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ |
| 9月23日 | 秋分の日 |
| 9月24日 | 診療応援(工藤先生) |

